

## 渡邊彌蔵資料とその意義

—明治から戦後に至る広島洋楽普及の観点から—

「ヒロシマと音楽」委員会委員長 能 登 原 由 美

はじめに

本稿は、渡邊彌蔵（1879-1978）の旧蔵資料とその意義を紹介するものである。渡邊は、明治末期に広島県師範学校（以下、「県師」と略）に赴任して以降、主に音楽教員養成の立場から広島の音楽界を半世紀以上にわたって牽引した。だが、西洋音楽（以下、「洋楽」と略）が普及し始めたばかりの広島にあって、その活動は一教師の域にとどまらず、広島の音楽文化史上においても大きな功績を残すものとなった。

本稿で紹介するこれらの資料については、筆者が行っている「広島音楽史」編纂事業<sup>1</sup>、ならびに広島市が2018年に刊行した『広島市被爆70年史』編纂<sup>2</sup>のための資料収集において、渡邊の遺族宅にあった遺品を調査する過程で発見されたものである。実は、渡邊の旧蔵資料のうち、書籍、雑誌、楽譜、レコードなど渡邊が購入した市販の資料についてはすでに他機関に寄贈されている<sup>3</sup>。それらはいずれも、近代日本の音楽事情を知る上では非常に貴重な資料である。けれども、筆者にとっての重要課題は、渡邊自身が広島で実際に行った教育や活動であり、それを通じて広島における洋楽普及の過程を見ることであった。その点、本稿で紹介する資料は、日誌類や書簡、執筆原稿の草稿、音楽会プログラム、写真など、実際の渡邊自身の活動の様子を記録したものであり、先に触れた研究課題において大きな価値を持つ。そればかりか、渡邊が広島で活動した明治末から戦後に至るまでの時代は、軍都であった広島が原爆投下と敗戦を経て平和都市へと移り変わる時期にも重なっている。すなわち、近代の一地方都市における洋楽普及の流れを明らかにすると同時に、日本の国家体制の変遷に音楽がどのように関わってきたのかを明らかにするものともなり得るのである。その史的価値は、広島の音楽教育史、あるいは音楽文化史上にとどまらず、日本の音楽史上にも及ぶ可能性を秘めているのである。

本稿では、これらの資料の意義を提示するべく、まずは渡邊自身の経歴とその功績を述べる。その上で、本資料について広島の洋楽普及史の観点からその史的意義を挙げ、最後に主要な資料のリストを掲載する。なお、本文の中で資料に言及する場合は、広島市公文書館の資料番号を掲げるが、その際、当館の英語表記（Hiroshima Municipal Archives）に基づき「HMA」と略記し、続けてその資料番号を付すものとする。

### 1. 渡邊彌蔵の経歴<sup>4</sup>とその功績

#### 1-1. 広島に赴任するまで

明治12（1879）年、福島県に生まれた渡邊は、福島師範学校を卒業後に一時、福島県内の小学校に勤務した後、明治34年に東京音楽学校（現東京藝術大学音楽学部）甲種師範科に入学した。ここでは、幸田延など日本の洋楽界の先駆者たちから、歌唱やピアノのほか、ヴァイオリンなどの教授も受けたという<sup>5</sup>。また、同期の声楽科には、のちに国際的なオペラ歌手となる柴田環（のちに改姓して三浦環）がいた。資料の中には、その柴田が主演を務め、日本人による最初のオペラ上演として知られる公演時<sup>6</sup>の写真（HMA629）や、明治35年から37年にかけて東京で行われた音楽会のプログラム（HMA222）などがあることから、渡邊はこの時期、日本で最先端となる洋楽の演奏機会に数多く触れたものと考えられる。渡邊が東京で受けたこうした洋楽教育や音楽会の経験は、当然ながらその後の渡邊の活動に影響を与えたであろう。なお、これらの資料については改めて後述する。

明治37（1904）年に同校を卒業すると、まずは岩手県盛岡中学校に着任する。その2年後の明治39年に

は、新潟県の高田師範学校に赴任した。最初の赴任地にはオルガン 1 台のみ、次の赴任地では着任当初はピアノさえ設置されていないなど、教育現場の設備はいずれも万全とは言えなかったらしい<sup>7</sup>。だが、両地において、演奏会の開催に関与したらしく、演奏者として出演していたことがわかる<sup>8</sup>。東京時代に培った音楽経験は、ここで早速生かされたようである。

### 1-2. 広島県師範学校教員時代

高田師範学校での 3 年の教員生活を経て、渡邊は明治 42（1909）年に広島に赴任した。県師の音楽科教員と、広島陸軍幼年学校嘱託教授を兼任するものであった。この赴任の機会を作ったのは、福島師範学校時代の恩師で、その後渡邊を音楽の道へと導いた吉田信太であった<sup>9</sup>。吉田は当時、広島高等師範学校の音楽科教授を務めていた。それから大正 14（1925）年に退任するまでの 16 年間、渡邊は音楽科教員の養成に従事した。

この在任期間中に渡邊が行った音楽教育内容の詳細やその意義については、音楽教育史の観点からの研究調査に委ねたい。ここでは、広島の洋楽普及の観点に基づく意義について、資料を通じて明らかにされる点についてのみ触れる。それは、歌唱技術の習得、およびオルガンなどの鍵盤楽器演奏技術の習得と普及に関するものである。いずれも、唱歌教育を中心とした当時の音楽教育界における最重要課題であった<sup>10</sup>。

実際、県師に着任した当時、唱歌の授業を担当できずオルガンも弾けない教員の多さが問題視され、師範学校での音楽教育に改善を求める要請が寄せられていたという<sup>11</sup>。渡邊の前任者には、東京音楽学校のピアノ科、および声楽科を卒業した教員がいたが<sup>12</sup>、彼らの指導は十分な成果を挙げていなかったとみられる。設備も不十分で、全校で 10 台程度しかないオルガン不足を補うために、紙製の鍵盤を作り、運指の練習を課したという<sup>13</sup>。また、大正 6（1917）年にはオルガン、ピアノ、ヴァイオリンに関する図版付きの解説書、『楽器の解説』（HMA132, 133）を自ら執筆、出版しており、楽器演奏の指導に力を入れていたことがここからもうかがえる。

一方、唱歌教育でも活発な動きを見せている。特にここで注目したいのは、その成果を早くから一般公開したことである。すなわち、渡邊は、赴任した翌年の明治 43（1910）年 7 月 1 日に最初の公開演奏会を開催している<sup>14</sup>。当時のプログラム（HMA222）によれば、ここでは県師の学生や附属小学校の生徒らが出演し、唱歌が歌われている。また、渡邊自身や他の教員によって、オルガンやピアノなどの楽器演奏も行われた。以後、この演奏会は「自進会」と称され、ほぼ毎年定期的に開催されるようになった。第 2 回演奏会では、福山、尾道、三原など近隣の学校の教員も参加するなど<sup>15</sup>、校内発表会にとどまらない規模へと広がっていったようである。残念ながら、本資料だけではこの演奏会の全ての記録を網羅することはできない。けれども、渡邊が県師を離職した後の、昭和 2（1927）年 1 月 27 日に開催された演奏会プログラムも見つかっていることから、少なくとも 20 年近く続いたものとみられる。

こうした公開演奏の機会は学生のみならず、市民にも唱歌を紹介し、その普及を促進するものとなったであろう。そればかりか、歌唱に力を入れた渡邊の活動はその後、私設合唱団の創設へと繋がっていくが、学校外の活動であることからこの点については後述する。

### 1-3. 進徳高等女学校教員時代

大正 14（1925）年 1 月、渡邊は以前から不和であった校長との関係悪化が原因<sup>16</sup>で同校を退職し、浄土真宗の宗門校であった進徳高等女学校（現進徳女子高等学校）の補習科主任に転任した。ここでは着任当初から、給与面や業務内容などにおいてかなりの厚遇を受けていたようで、特に「一小室を与えられ教務に関する凡てを除かれてあった」<sup>17</sup>ことは、渡邊に研究やその他の活動の機会を与えることになった。実際、着任から数年の間に、高等女学校用の音楽教科書<sup>18</sup>や楽典などを出版している<sup>19</sup>。

また、渡邊の着任早々、スタインウェイ社のグランド・ピアノが立て続けに 2 台購入されている<sup>20</sup>。これはおそらく、前任地で行っていたような演奏会の開催を希望する彼の要望に、学校側が応じた結果であったの

だろう。着任から2ヶ月も経たない3月1日には公開演奏会が開催されている。「第1回音楽演奏会」と題されたその演奏会では、本校の生徒のほか、渡邊や他校の教員らが出演し、合唱やピアノ演奏などが行われた(HMA222)。翌年の第2回の演奏会では呉海兵団軍楽隊も客演し<sup>21</sup>、プロの楽団も交えたより大きな演奏会に発展していたことがわかる。その後も、渡邊はこうした公開演奏会を精力的に行ったが、その背景にはやはり学校側の積極的な協力があったものとみられる。なお、こうした演奏会活動については後に改めて詳述する。

その後、昭和10(1935)年には同校の教頭に就任し、経営者としても辣腕を振るった。また、同校のみならず、広島音楽教育界の指導的立場として、戦時中は広島における音楽活動の中心的な役割を担ったようだが、これについては後述したい。なお、原爆投下時、自宅にいた渡邊は比較的軽傷で済んだが、壊滅的被害を受けた同校教職員や生徒の救助活動などに奔走しており、それについては渡邊自ら手記を残していることを補足する<sup>22</sup>。

戦後は、同校の教頭を務めながら、広島県教育音楽協会会長、広島高校合唱連盟会長などの要職も担うなど広島の音楽界を牽引し、昭和37(1962)年、83歳で進徳女子高等学校を退任した。昭和53(1978)年、99歳でその生涯を終えた。

#### 1-4. 校外における活動

渡邊の功績が一教師の枠に収まらないのは、学校の枠組みを超えた多様な音楽活動を展開したためである。こうした活動については、本資料が発見されるまでその詳細について明らかにされてこなかった。いずれも、広島における音楽普及の過程で重要な役割を果たしたものと言えるため、ここでは、資料を通じて現時点で判明したことを提示しておきたい。すなわち、(1) 広島フィルハーモニー合唱団の結成と活動、(2) 演奏会とラジオ放送を通じた市民への音楽普及、(3) 音楽評論家としての活動、(4) 戦時下の音楽活動と中国吹奏楽連盟に関するものである。

##### (1) 広島フィルハーモニー合唱団の結成と活動

大正9(1920)年、渡邊は県師の生徒や卒業生などとともに「広島フィルハーモニー合唱団」を立ち上げた。その目的は、教員検定試験への対策であったというが<sup>23</sup>、公開演奏会やラジオ出演などの演奏活動のほか、音楽講習会の開催、中央から招聘した演奏家による音楽会の開催など、単なる試験対策にとどまらない多岐にわたる活動が行われたことがわかる。実際、会員には広島市内外の学校教育関係者も多数みられ(HMA592)、広島で音楽教育に関わる人々が幅広く参加していたものと思われる。現在明らかになっている限りでは、この団体は広島における私設の合唱団としては最も古いものとみられるが、戦況悪化によって昭和18(1943)年に解散される<sup>24</sup>までの20有余年というその長い活動を考えると、音楽普及期の広島においてこの団体が果たした役割は非常に大きい。

例えば演奏活動についてみると、発足翌年の大正10(1921)年3月13日に第1回演奏会が県師講堂にて行われている(HMA222)。呉海兵団軍楽隊の助演もあり、女声、男声、混声を交えた合唱と、管弦楽演奏が交互に行われるという華やかな内容であった。また、招聘演奏家による音楽会の開催は、プログラム(HMA222)で確認する限り、大正11年には始まっていたことが明らかで、例えば「東京クラコヴィアン・ソサエティ管弦楽大演奏会」(大正11年7月22日)、世界的ヴァイオリニスト、ヴォリス・ラッスのソロ・リサイタル(大正15年6月24日)など国内外の演奏家を招いている。一方、音楽講習会とは専門家を講師に迎えての講習会のことで、資料(HMA592)を見る限り、昭和7(1932)年から8年にかけて、広島県下の小学校に勤務する教員を対象に、東京音楽学校声楽科教授の沢崎定之や、声楽家の荻野綾子といった大家による唱歌講習会が行われていたことがわかる<sup>25</sup>。こうした合唱団の活動については、渡邊の最も大きな功績の一つとみなせるだろう。



## （2）演奏会とラジオ放送を通じた市民への洋楽普及

渡邊は演奏会の開催を積極的に行った。これには、東京時代に見聞した演奏会のほか、その後赴任した岩手県、新潟県で演奏会に出演したことなども影響しているかもしれない<sup>26</sup>。すでに述べたように、県師では着任した翌年から「自進会」と称した公開演奏会を開催し、定例行事とした。また、広島フィルハーモニー合唱団についても結成の翌年から公開演奏会を行っている。その後転任した進徳高等女学校においても、赴任直後から大規模な公開演奏会を行い、その規模は年を追うごとに拡大していることは先述した。そればかりか、この演奏会とは別に、渡邊は県下全体に及ぶ大きな演奏会を開始している。すなわち、「県下小学児童音楽会」と称した演奏会では、同校生徒のほか、県下の多数の小学校児童が参加し、唱歌を歌っている。現在見つかっている最も古い記録は昭和 5（1930）年 2 月 23 日に開催されたもので、23 校<sup>27</sup>の小学校児童が参加している（HMA146）。渡邊によれば、その後も毎年この音楽会は開催され、戦況が激しくなる昭和 11 年まで続いたとみられる<sup>28</sup>。毎年県下の 20～30 校余りの小学校児童が出演し<sup>29</sup>、また 2,500 人規模の聴衆が集まったということ<sup>30</sup>を考えると、出演した児童や聴衆の市民に与えたその影響は決して看過できないであろう。

さらに注目すべきは、こうした演奏会の様子を会場からラジオで実況中継したことである。大正 14（1925）年に開始されたラジオ放送は、広島ではその 3 年後の昭和 3（1928）年に、広島放送局（現 NHK 広島放送局）が開局したことで本格的に始まった。当然ながら、ラジオ放送を通じて獲得できる聴衆の数と範囲は会場とは比較にならないほど大きい<sup>31</sup>、渡邊はラジオ放送の始まりから程なくして、その意義を強く認識するようになったことが彼自身の寄稿記事から読み取れる<sup>32</sup>。さらにその中で渡邊は、ラジオが音楽教育の場においても有益であることも指摘するのである。おそらく、こうした実況中継についても彼自身が積極的に奨励していたものと思われる<sup>33</sup>。先の「県下小学児童音楽会」については、昭和 5 年の大会から毎年実況中継を行っていたことがわかるが<sup>34</sup>、この演奏会のみならず、渡邊自身も指揮者、あるいは番組講師としてラジオ放送に何度も出演している。ラジオ放送の影響力を鑑みれば、広く市民に洋楽を広めるという意味で大きな意義を持つものであったと言える。

## （3）音楽評論家としての活動

渡邊は、音楽書籍や評論の執筆も数多く手がけている。書籍について言えば、進徳高等女学校時代に音楽教科書や楽典を出版したことは先に述べたが、それ以前にも、すでに高田師範学校および県師在任中から楽典に関する書籍をそれぞれ執筆、出版している<sup>35</sup>。その後は雑誌や新聞への音楽評論の寄稿を数多く手がけるようになり、唱歌など自身の専門に関するもののほか<sup>36</sup>、広島の音楽時事や時評、歴史に関するものを数多く残している<sup>37</sup>。

## （4）戦時下の音楽活動と中国吹奏楽連盟

総力戦体制が強化される中、日本の音楽界にも挙国一致への動きが広がった。広島でも音楽関係者が一致して戦時体制に協力するべく、「中国吹奏楽連盟」が昭和 13（1938）年に結成される。当時、すでに広島の音楽界において中心的な立場にあった渡邊はその理事長に就任し、広島の音楽界を統括する役割を担うことになる。結成にともない、昭和 13 年 11 月 26 日に最初の合同演奏会と市中音楽行進が行われた。その時のプログラム（HMA222）によると、広島高等師範学校や県師などの学校団体や、広島鉄道局などの企業の音楽団体、計 11 団体が参加しており、「軍艦行進曲」、「愛国行進曲」といった戦意高揚を促す楽曲が演奏されている。市中行進の様子を写した写真も残されており（HMA634）、「音楽報国」のプラカードを掲げて練り歩くパレードの先頭に渡邊の姿が確認できる。渡邊の記述によれば<sup>38</sup>、彼らは戦死者の慰霊、軍隊の慰安や従軍医療関係者の慰問、市民への戦意高揚などを目的に演奏活動を行っていた。また、参加団体も徐々に増え、昭和 18 年には 30 余りの団体が参加していたようである。ただし、戦後に渡邊が書いた記事によれば<sup>39</sup>、実務面については会長など

その他のメンバーが中心となって行っていたという。よって、渡邊自身が団体の結成や、その後の活動においてどこまでの役割を担ったのかについて、現時点では判断できない。

同様に、戦時下の音楽活動に関連するものとして、昭和 15（1940）年 11 月 11 日に行われた「紀元 2600 年」の式典への参加がある。この時、奉祝歌を歌うべく各都道府県から学生・生徒が選抜され、式典に出席したが、渡邊はその選抜を行うとともに式典に出席するなど中心的な役割を担ったようである。男女各 5 名の生徒とともに参加したこの時の様子について、渡邊は自伝の中で誇らしく述べるとともに<sup>40</sup>、関連資料を残している（HMA270-279）。

## 2. 渡邊彌蔵資料について

こうした渡邊の活動や、広島における音楽活動を明らかにする上で、本資料の果たす役割は非常に大きい。とりわけ、渡邊は様々な出来事や記録を随時書きとめるとともに、資料の多くを生涯大切に保管していたことから、今後の調査によってさらに様々な発見がなされるであろう。ただし、その資料は多岐にわたるため、本稿では広島の洋楽の記録に関連するもののみを取り上げ、リストに掲載するとともに概要を述べる。それらは大きく分けると、楽譜、書籍、音楽会関連プログラム、書簡、新聞・雑誌への寄稿記事、新聞・雑誌への寄稿記事の草稿、日誌類、広島フィルハーモニー会関連の資料、写真である。

### (1) 楽譜（HMA1-128）

渡邊自身が所有していた楽譜の多くはすでに他機関に寄贈されている<sup>41</sup>。その後新たに見つかったものとして、国内外で刊行された印刷楽譜のほか、渡邊自身が手書したとみられる手書きの楽譜がある。その中には、僅かながらも自作曲の楽譜（HMA59）も含まれている。渡邊自身が実際の教育現場で扱った楽曲について知る上で、貴重な資料である。

### (2) 書籍（HMA129-142）

楽譜同様、音楽に関連する刊行書籍についても他機関の所蔵となっているため、本資料においてその数は非常に少ない。この中で重要なものとして、先述したように、県師時代に渡邊自身が執筆し、大正 6（1917）年に出版した『楽器の解説』がある。同校での音楽教育の内容を知る手掛かりとなるであろう。

### (3) 音楽会関連プログラム（HMA144-205,207-217,222）

明治から昭和にかけて開催された音楽会のプログラムやパンフレット、チケットなどが含まれる。おそらくその多くは、渡邊自身が実際に見聞した催事であったとみられる。

とりわけ重要なのは、「PROGRAM Y.WATANABE」と表紙に記載されたプログラム帳（HMA222）である。最初のページには、「このプログラム帳は音楽学校に入学してから見たり聴いたりしたもので手元に持っているものを貼り付けたものである。」と書かれ、文末に「昭和 26 年 8 月」の日付も記されている。それまでに渡邊自身が参加した音楽会のうち、特に重要とみなした会の記録と考えることもできよう。本冊子に所収されている総数は 260 点<sup>42</sup>。年代が記載されていないものもあるが、その内容から判断すると、最も古いものは明治 35（1902）年 11 月 16 日付け「東京音楽学校 秋季音楽演奏会」、最も新しいものは昭和 26（1951）年 7 月 7 日付け「広島フィルハーモニー交響楽団創立演奏会 第 1 回ポピュラーコンサート」とみられる。東京音楽学校の学生時代のほか、盛岡や高田師範赴任時代に出演参加したとみられるものもあり、渡邊自身が広島赴任前に体験した音楽会の記録を示すものでもある。また、広島について言えば、明治 42 年 11 月 23 日に広島県立広島高等女学校で開催された音楽会や、その 5 日後に広島高等師範学校で開催された丁未音楽会、翌年の 6 月から 7 月にかけて広島女学校、県師で相次いで開催された音楽会など、資料の少ない明治末期の広島市内

における音楽会資料が数多く含まれている点でも大きな価値がある。

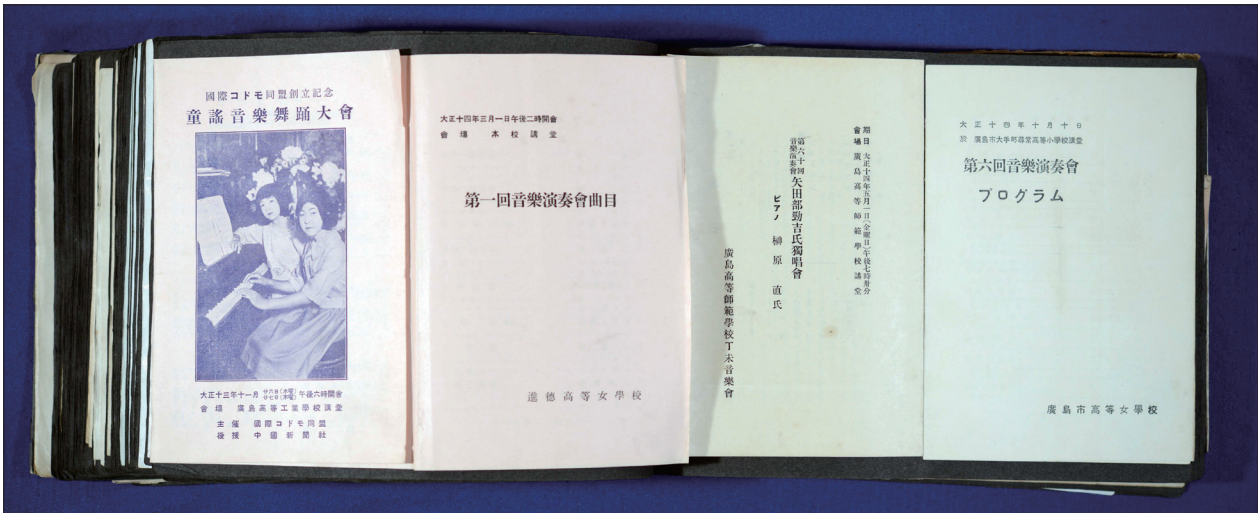


写真 プログラム帳 (HMA222)

#### (4) 書簡類 (HMA224-235)

ハガキや封書、また渡邊自身が送った書簡の草稿が含まれるが、これらは渡邊自身の交友関係を示すものとして興味深い。特に計 5 冊からなる草稿帳 (HMA235) については、渡邊自身が行った教育や企画した音楽会・講習会、あるいは関わったラジオ番組の各内容について関係者とのやりとりを示すものとなっており、戦前の音楽活動の実態を知る上で貴重な資料となる。例えば、戦前の日本を代表する作曲家の一人、信時潔に宛てた昭和 3 (1928) 年 5 月 19 日付けの書簡 (HMA235-2, pp.8-10) では、広島市内、もしくは厳島において同年 8 月 8 日から 5 日間にかけて行われる音楽講習会の講師としての依頼を行っている。添付された講習会案によれば、受講者は小学校、中等学校の教員で、渡邊は東京音楽学校で教鞭を執っていた信時に対し、作曲学と唱歌の講師を想定していたようである。また、この中ではその講師料についての提案も行われている。その 6 日後の 5 月 25 日付けの信時宛ての書簡によれば、信時はこの依頼を引き受けなかったことがわかるが (HMA235-2, pp.11-12)、こうした企画の経緯や意図、財政事情などの裏事情については公にされないことを考えると興味深い。特に、音楽会の資料自体が少ない戦前の記録にあっては、非常に貴重なものと言える。これらの草稿を通じて、当時の音楽活動の詳細が明らかにされるであろう。

#### (5) 新聞・雑誌への寄稿記事 (HMA480-486)

音楽評論家として活動した渡邊の執筆記事のうち、刊行された記事の一部が資料の中から見つかった。このうち特に重要なものは、『中国新聞』で連載された「広島音楽界 50 年の裏表」(HMA480) である。昭和 38 (1963) 年 1 月 8 日から同年 3 月 6 日にかけて 42 回にわたって連載されたもので、明治 35 (1902) 年の広島高等師範学校の創設 (HMA480-1) から執筆当時の音楽時評 (HMA480-42) まで、50 年余りに及ぶ広島の音楽界についての出来事が書かれている。エッセイ風の回顧録ではあるが、広島音楽連盟の目崎正義に関する記事のように、広島の音楽界に重要な功績を残しながら記録のほとんど残されていない人物に関するものもあり (HMA480-33)、重要な資料ともなり得る。

#### (6) 新聞・雑誌への寄稿用とみられる草稿 (HMA487-583)

渡邊による新聞・雑誌への寄稿は多いが、掲載された記事の全容はまだつかめていない。だが、寄稿を想定したとみられる原稿の草稿が記事のタイトルとともに残されている。



とりわけ重要なのは、渡邊が戦時中に書いた草稿類である。これらの草稿では、当時の広島音楽界の様子が記されるとともに、こうした時勢に対する渡邊自身の考えなどを読み取ることができるのである。一方、こうした戦時下における音楽活動については、戦後にまとめた自伝などにはほとんど記されていない。たとえあったとしても、被爆と敗戦によって生じたとみられる戦争観が強く反映されていることから、戦時中の実情を明らかにすることはできないのである。渡邊自身に限らず、戦時中の広島における音楽活動の実態については資料も少ないことを考えると、これらの資料は当時の状況を知る上で大きな価値を持つ。

また、これらの草稿には複数の筆名とみられる名前が記述されている。例えば、「渡邊稚聲」(HMA489,p.1)、「渡邊籟音」、「渡邊雷音」(HMA492,p.3)、「阿武隈川」(HMA490,p.7)、「渡邊隈川」(HMA491,p.1)などである。このうちのいくつかは、実際に刊行された新聞記事でもその使用を確認することができる<sup>43</sup>。

#### (7) 日誌類 (HMA584-588,591)

ここには次のようなものが含まれる。つまり、年間ダイアリー(明治42年～昭和39年、中断あり、計51冊、HMA584)、病床日誌(HMA585-587)、抄録(HMA591)、自伝(HMA573)である。

年間ダイアリーは、渡邊が広島に赴任した明治42(1909)年から昭和39(1964)年までの記録が計51冊の手帳に収められたものである。ただし、年によって記述量に大きな差があり、中断した時期もある。けれどもその後、渡邊自身が作成した抄録や自伝、広島の音楽史記述<sup>44</sup>の底本となったとみられ、重要である。

抄録については、広島の音楽活動記録を示している点でも重要である。その前半部分は年表で、渡邊自身の誕生(明治12年)から昭和41年4月17日までの記録である。後半部分は「主要事項抄録(日記より)」と題されたより詳細な内容で、誕生から昭和48年まで採録されている。渡邊自身に関わる出来事のほか、演奏会に関する記述や、渡邊自身が講師を務めたとみられる広島市内外での音楽講習会の記録もある。特に講習会については明治末期から大正期にかけて開催されたものが含まれており、洋楽が普及し始めた時期の普及のネットワークを知る上で重要な手掛かりとなる。

#### (8) 広島フィルハーモニー合唱団関連資料 (HMA592)

渡邊が創設した広島フィルハーモニー合唱団に関連する事務書類である。広島フィルハーモニー会の会員名簿、会員証、印鑑が含まれる。また実際の活動の詳細を示すものとして、合唱団が主催した「夏季講習唱歌講習会」に関連する資料がある。つまり、昭和7(1932)年から8年にかけて行った講習会の名簿と出納帳、案内チラシ、さらに昭和9年に開催した講習会用の手書き謄写版のテキストである。いずれも、合唱団の記録として重要であるばかりか、当時の音楽講習会の実態を知る上で貴重な資料である。

#### (9) 写真 (HMA629-650)

渡邊の家族や知人に関連する私的な写真と、渡邊関わった音楽会や音楽行事に関連する公的な写真の2種類がある。このうち、本稿にとって重要なのは後者である。

そのうち、最も古いとみられるのは、東京音楽学校時代の写真である。同校生徒と教員による合唱および合奏時の集合写真(明治36年)と、すでに触れた日本人キャストによる本邦史上初のオペラ公演の写真(明治36年)である。けれども、それ以上に重要なのは広島に関連する写真であろう。広島フィルハーモニー会の練習時の写真や「県下小学児童音楽会」の写真など、渡邊が関与した活動に関する大正から昭和初期にかけての写真が複数ある。また中国吹奏楽連盟結成時の市中音楽行進の様子を撮影したものなど、戦時中の音楽活動を示す写真も多い。戦前の広島における音楽活動の様子を記録した画像が少ない中で、これら写真群の資料価値の高さは計り知れない。

### 3. 渡邊彌蔵資料リスト

最後に、本資料のうち音楽に関連するものをリストとして掲載する。

資料名 (内容)	作成者	作成年	資料No.
楽譜 (印刷譜)			
行進曲『戦勝旗』ブロン作曲	音楽社	1912(T1)	5
『水辺月夜の歌』増沢健美曲 佐藤春夫詩	シンフォニー楽譜出版社	1928(S3)	6
『La Cinquante』(金婚式 GABRIEL-MARIE)			7
FAVORITE DUETS FOR VIOLIN AND PIANO (『MENUET』 『ANGELS' SERENADE.』)	OLIVER DITSON COMPANY		8
FAVORITE DUETS FOR VIOLIN AND PIANO (SECOND SERIES) (『AVE MARIA』他 10 曲)	OLIVER DITSON COMPANY		9
『東京マーチ』ピアノ独奏 瀬戸口藤吉作	大日本学校音楽調査会出版部		10
『戦争遊戯進行曲』(再版) 近代楽譜第 4 編	大日本学校音楽調査会出版部	1917(T6)	11
『君が代進行曲』吉本光蔵作曲 瀬戸口藤吉編曲 『君が代』海軍々楽隊調	音楽社	1911(M44)	12
『敷島行進曲』瀬戸口藤吉作曲 『敷島艦の歌』坂正臣作歌	音楽社出版部	1911(M44)	13
『御大典行進曲』(CORONATION MARCH) 山田耕作著	三木楽器店	1915(T4)	14
御大礼記念大正楽譜第 1 号『踐祚大行進曲』マイエルベル作曲	音楽社出版部	1915(T4)	15
『TRIO-ALBUM for Violino, Violoncello og Piano.』			16
VIOLINO II .VIOLA. 名曲撰集 4			17
『Csikos-Post.』 Hermann Necke	音楽社出版部	1914(T3)	18
『Pod duben, Za dubne.』 名曲撰集 8			19
CEI1 名曲撰集 8			20
『Ich weiss nicht was soll es bedeuten』 名曲撰集 10			21
MONTHLY FAMOUS MUSIC 月刊西欧名曲 第 12 号 『PATRIOTISCHES LIEDER POTPOURRI.』(『愛国者の歌謡』 混輯曲 エツケルト氏作曲 大塚淳氏編曲)	音楽社出版部	1911(M44)	22
『Traumerei』			23
Violine.			24
ケイメイ社ピアノ楽譜 第 24 篇			25
『SIVERY WAVESA』 P.WYMAN	OLIVER DITSON COMPANY		26
『THE SIREN'S SONG』 ALBERT LINDAHL	D.DAVIS&Co.		27
宝塚みやげ 宝塚楽譜第 1 輯目録(『唾女房』『羅浮仙』『七夕踊』『お鬻祭』『クレオパトラ』『神楽狐』『江之島物語』『雛祭』『家庭教師』『花争』)	宝塚少女歌劇団	1919(T8)	28
『文殊と獅子』(宝塚楽譜第 11)	阪神急行電鉄株式会社	1919(T8)	29
『新世帯』(宝塚楽譜第 12)		1919(T8)	30
『世界漫遊』(宝塚楽譜第 13)		1919(T8)	31
『こだま』(宝塚楽譜第 14)		1920(T9)	32
『鼎法師』(宝塚楽譜第 15)		1920(T9)	33
『三人獵師』(宝塚楽譜第 16)		1920(T9)	34
『花咲爺』(宝塚楽譜第 17)		1920(T9)	35
『蟹満寺縁起』(宝塚楽譜第 18)		1920(T9)	36
『膝栗毛』(宝塚楽譜第 19)		1921(T10)	37
山田耕作童謡百曲集 61-80	日本交響楽協会出版部	1928(S3)	38
山田耕作童謡百曲集 81-100		1929(S4)	39
LES CLASSIQUES DE L'ENFANCE / AUTEURS DIVERS. (COLLECTION LITOLFF No. 1274)			41



資料名 (内容)	作成者	作成年	資料No.
LES CLASSIQUES DE L'ENFANCE / MENDELSSOHN. (COLLECTION LITOLFF No. 1278)			42
Violin-Duette / LOUIS SCHUBERT (COLLECTION LITOLFF No. 571)			43
THE MOST POPULAR CELLO SOLOS	HINDS,NOBLE&ELDREDGE,-PUBLISHERS		44
LES CLASSIQUES DE L'ENFANCE / MOZART. (COLLECTION LITOLFF No. 1271)			45
6 Petits Duos / PLEYEL (COLLECTION LITOLFF No. 1581)			46
GRAND OPERA MELODIES	OLIVER DITSON COMPANY		47
名曲叢書 第2編 ヴァイオリン独奏曲	共益商社書店	1916(T5)	48
新選ヴァイオリン曲集 第1編 北村季晴・北村初子共編	共益商社楽器店	1908(M41)	49
『March "Man-of war"』			53
THIRD POSITION STUDIES FOR VIOLIN first Edition	東京音楽学校学友会	1913(T2)	54
THE MOST POPULAR SELECTIONS FOR THE VIOLIN AND PIANO Vol.1	HINDS,NOBLE&ELDREDGE		55
MOZART SONATEN BAND II (EDITION PETERS No. 486b)			56
ALBUMS CLASSIQUES POUR VIOLIN SEUL Vol.6 / WEBER. (COLLECTION LITOLFF No. 1448)			57
『SERENADE』 CH.GOUNCD			63
『記念祭歌』 砂堀隆明			97
『THE BRANDENBURG CONCERTOS』 BACH	Columbia Records		99
『CONCERTSTUCK IN F MINOR』 WEBER	Columbia Records		100
『SYMPHONIE ESPAGNOLE』 LALO	Columbia Records		101
『SYMPHONY No. 8』 SCHUBERT	Columbia Records		102
The One Hundred and One Best Songs	The Cable Company		103
全音歌謡曲全集 第1集	全音楽譜出版社		104
『LOHEIGRIN』 WAGNER	Wiener Philharmonischer Verlag		105
『OUVERTURE DIE HEBRIDEN』 MENDELSSOHN	Wiener Philharmonischer Verlag		106
『OUVERTURE zur Oper Wilhelm Tell』 GIOACCHINO ROSSINI	Ernst Eulenburg		107
『KLAVIER-KONZERT No. 1』 LISZT	Ernst Eulenburg		108
『DIE WALKURE No.7』 WAGNER	Ernst Eulenburg		109
『DIE WALKURE No.8』 WAGNER	Ernst Eulenburg		110
『RIENZI,der letzte der Tribunen』 WAGNER	Ernst Eulenburg		111
『Sonate』 BEETHOVEN	Ernst Eulenburg		112
『SYMPHONIE No. 7』 BEETHOVEN	Ernst Eulenburg		113
『SYMPHONIE No. 8』 BEETHOVEN	Ernst Eulenburg		114
『VIOLIN-KONZERT』 BEETHOVEN	Ernst Eulenburg		115
『KLAVIER-KONZERT No. 1』 BEETHOVEN	Ernst Eulenburg		116
『KLAVIER-KONZERT No. 4』 BEETHOVEN	Ernst Eulenburg		117
『KLAVIER-KONZERT No. 5』 BEETHOVEN	Ernst Eulenburg		118
『東京音楽学校創立六十周年記念歌』 乗杉嘉壽作歌 下總皖一作曲		1939(S14)	119
『作れ国民歌』 国民歌予選歌集	檜健次舞踊研究所	1934(S9)	120
山と海の歌 (音楽単元学習資料3)	音楽之友社		121

資料名 (内容)	作成者	作成年	資料No.
大作曲家のつくった歌 (音楽単元学習資料 5)	音楽之友社		122
『VIOLIN CONCERTO』 MENDELSSOHN	Columbia Records		123
THE MOST POPULAR COLLEGE SONGS	H I N D S , N O B L E & E L - DREDGE, Inc, PUBLISHERS	1905 (M38)	124
GAUDEAMUS	Anton J. Benjamin		125
『広島女子商業学校校歌』 高野辰之作歌 信時潔作曲			126
楽譜 (手稿譜)			
楽譜集『春の曲』ほか			1
楽譜集『天安河』ほか			2
楽譜集『愉快』ほか			3
『Etude 1』ほか			4
『HARMONIUM』 ERNEST FELIX BENDA			40
『帰る雁』			50
『広島県立青年学校教員養成所所歌』 作歌上村貞章		1942 (S17)	51
『広島県立青年学校教員養成所行進曲』 作歌上村貞章		1942 (S17)	52
『国民歌「吾等の日本」』 大日本国民音楽協会選			58
四部合唱曲『平和』『わが母』			59
『己斐中学校々歌』 渡邊彌蔵作曲 福屋基千代作歌			60
『音戸瀬戸』		1964 (S39)	61
『合唱讃歌』 平井康三郎作曲			62
『二見が浦』			64
『庭の小雪』			65
『御空』			66
『海女 (かいじょ)』			67
『鉄道開通 (Tunnel Feat. lied)』			68
『CRADLE SONG』 A. ILJINSKY			69
『若松懐古』 Schubert / 吉丸一昌			70
『Ouverture』			71
『Tannhäuser』			72
『THE FIRST KISS WALTZ』			73
『Die Hugenotten』 G. Meyerbeer			74
『Fra Diavolo』 Auber			75
『Wilhelm Tell』 G. Rossini			76
『嵯峨の秋』			77
『Jäger Chor』 C. M. V. Weber			78
『SERENADE』 W. A. Mozart			79
『AIR』 HANDEL			80
『TANNHAUSERMARSCH』			81
『LA DERNIERE ROSE』			82
『野遊び』 山口重樹作歌 永井幸次作曲			83
『Pleasure Climbs to Every Mountain』 Gollmick			84
『Fra Diavolo』 Auber			85
『わが母』 詩 河井醉茗 曲 渡辺弥蔵			86
『マックアーサー元帥杯大会の歌』 佐々木英之助作詞 大沢壽人作曲			87
『平和』 詩 土井晩翠 曲 渡辺弥蔵			88

資料名 (内容)	作成者	作成年	資料No.
『AULD LANG SYNE』 Robert Burns			89
『さくらさくら (日本古謡に依る)』 太田司朗曲			90
〔ハレルヤ〕			91
『昼の夢』 ほか			92
(タイトル不明)			93-96
〔未使用五線譜〕			98, 127, 128
<b>音楽関連書籍</b>			
『ライカ行脚 独逸楽聖遺跡』 屬啓成著	三省堂	1938(S13)	129
『ベートーヴェン』 長谷川千秋著 / 岩波新書 16	岩波書店	1938(S13)	130
『楽器の解説』 渡邊彌蔵著	鈴木常次郎	1917(T6)	132
「楽器の解説」 渡邊彌蔵著	鈴木常次郎	1917(T6)	133
『中学校音楽 3.』(中学音楽月報 第4号 7・8月合併号)	二葉株式会社	1959(S34)	257
<b>音楽関連雑誌</b>			
『スタア』 3月下旬号 (第2巻第6号、通巻第21号)	スタア社	1934(S9)	260
『Tonica』 1月号 (第7巻第1号、通巻第21号)	音楽教育研究教会	1968(S43)	261
<b>音楽会プログラム類</b>			
音楽演奏会 第36回 似島独逸俘虜音楽会曲目	広島高等師範学校丁未音楽会	1919(T8)	144
高工学生音楽会曲目 第12回 (招待券)	広島高等工業学校音楽部		145
県下小学児童音楽会曲目	進徳高等女学校	1930(S5)	146
音楽研究発表 演奏会曲目	広島県三師範合同教育研究会	1930(S5)	147
伯林国立高等音楽学校教授 レオニード・クロイツァ氏 独奏会曲目解説	丁未音楽会	1931(S6)	148
音楽会 第84回	丁未音楽会	1931(S6)	149
楽聖 ヤツシヤ・ハイフェッツ氏 提琴大演奏会曲目	広島県立広島高等女学校有 朋会	1931(S6)	150
宮川美子嬢独唱会 プログラム	広島社会事業婦人会	1931(S6)	151
中国吹奏楽団連盟 第1回合同大演奏会		1938(S13)	152
東京音楽学校大演奏会	東京音楽学校同声会広島支部 / 広島文理大高師丁未音楽会	1939(S14)	153
通し狂言 仮名手本忠臣蔵	松竹株式会社大阪支店	1942(S17)	154
広島高校合唱連盟春季発表会 第5回合唱祭	広島高等学校合唱連盟	1952(S27)	155
春季邦楽大演奏会 第11回	広島邦楽研究会 / 県市教育委 員会 / 広島中央放送局		156
渡邊彌蔵・山本壽先生功績顕彰記念音楽会	広島教育音楽協会	1951(S26)	157
渡邊彌蔵・山本壽先生功績顕彰記念音楽会	広島教育音楽協会	1951(S26)	158
広島高校合唱連盟秋季発表会 第6回合唱祭	広島高校合唱連盟	1952(S27)	159
NHK Symphony Orchestra	NHK 交響楽団、広島中央放 送局、広島県市教育委員会	1952(S27)	160
広島高校合唱連盟春季発表会 第11回合唱祭	広島高校合唱連盟	1955(S30)	161
秋季大合唱祭 第18回	広島高校音楽連盟	1958(S33)	162
三宅春恵独唱会	広島音楽協会	1954(S29)	163
広島高校音楽連盟発表会 第17回春季合唱祭	広島高校音楽連盟	1958(S33)	164
全県下大学高校合同学生音楽祭 第2回	広島県教育音楽協会	1958(S33)	165
進徳学園 新ピアノ披露演奏会曲目		1954(S29)	166
広島高校合唱連盟春季発表会 第9回合唱祭	広島高校合唱連盟	1954(S29)	167
広島高校合唱連盟 春季発表会	広島高校合唱連盟	1956(S31)	168
広島高校合唱連盟秋季発表会 第14回合唱祭	広島高校合唱連盟	1956(S31)	169



資料名（内容）	作成者	作成年	資料No.
広島高校合唱連盟春季発表会 第 15 回合唱祭	広島高校合唱連盟	1957(S32)	170
広島高校音楽連盟発表会 第 1 回音楽会	広島高校音楽連盟	1957(S32)	171
広島高校音楽連盟秋季発表会	広島高校音楽連盟	1957(S32)	172
長門美保独唱会	全日本移動教室連盟		173
Marian Anderson	広島中央放送局	1953(S28)	174
ゲルハルトヒュッシュ独唱会	広島中央放送局		175
Kansai Symphony Orchestra	関西交響楽団	1958(S33)	176
NHK 交響楽団大演奏会	広島県教育委員会、広島中央放送局、広島市教育委員会、NHK 交響楽団	1951(S26)	177
ヘレン・トロウベル	朝日新聞		178
The BUDAPEST STRING QUARTET	日本放送協会、ラジオサービスセンター	1954(S29)	179
Gerhard Husch VOCAL RECITAL	日本放送協会、ラジオサービスセンター		180
Marian Anderson Vocal Recital	広島中央放送局、ラジオサービスセンター、広島県教育委員会、広島市教育委員会	1953(S28)	181
JOSEPH SZIGETI	毎日新聞	1953(S28)	182
PIERRE FOURNIER	広島中央放送局、ラジオサービスセンター	1954(S29)	183
RECITAL	中国新聞社	1954(S29)	184
NHK SYMPHONY ORCHESTRA	広島中央放送局、NHK 交響楽団	1955(S30)	185
歌劇 夕鶴	毎日新聞社広島支局	1955(S30)	186
有松洋子 ヴァイオリン演奏会	エリザベト短期大学	1960(S35)	187
広島高等学校音楽連盟結成 10 周年記念 第 20 回記念合唱祭	広島高等学校音楽連盟	1960(S35)	188
秋季合唱祭 22 回	広島高校音楽連盟	1960(S35)	189
SYMPHONY OF THE AIR (FORMERLY THE NBC TOSCANINI SYMPHONY)	毎日新聞社、日本放送協会	1955(S30)	190
FERUCCIO TAGLIAVINI VOCAL RECITAL	吉田音楽事務所		191
辻久子提琴独奏会	広島勤労者音楽協議会	1955(S30)	192
東京芸術大学交響楽団	広島勤労者音楽協議会	1955(S30)	193
WIENER PHILHARMONIKER 1956 JAPAN	朝日新聞社	1956(S31)	194
手古奈 / かぐや姫	広島生少年オペラ研究会、広島県教育音楽協会	1958(S33)	195
広島おどり 第 8 回	広島券番	1959(S34)	196
安川加寿子ピアノ・リサイタル	広島勤労者音楽協議会	1959(S34)	197
フランス音楽の夕	エリザベト短期大学	1959(S34)	198
BOSTON SYMPHONY ORCHESTRA JAPAN 1960	日本放送協会、NHK サービスセンター	1960(S35)	199
ピアノの集い 菊の会 10 周年記念	菊の会	1960(S35)	200
春季合唱祭 第 23 回	広島高校音楽連盟	1961(S36)	201
広島高校音楽連盟発表会 第 5 回音楽会	広島高校音楽連盟	1961(S36)	202
原爆被爆者慰霊 文化交流音楽会	広島市教育委員会、小倉市教育委員会	1962(S37)	203
花のステージ コロムビア音楽教室	日本コロムビア広島支店	1963(S38)	204
ウィーン八重奏団演奏会 VIENNA OCTET	NHK	1964(S39)	205
二葉あき子 歌の集い	皆実有朋会		207

資料名 (内容)	作成者	作成年	資料No.
広島文化女子短期大学音楽学科開設記念第1回定期演奏会	広島文化女子短期大学		208
フェオドル シャリアピン独唱会	朝日新聞社会事業団		209
ブルガリア国立歌劇場歌手特別公演	NHK		210
音楽教育創始八十周年記念 邦楽演奏会 / Judas Mac-cbaeus	朝日新聞社、東京芸術大学音楽学部同声会	1959(S34)	211
Solomon Piano Recital	朝日新聞社、東京芸術大学音楽学部同声会		212
歌劇カルメン 第2回定期演奏会	岡山大学教育音楽研究会	1960(S35)	213
KEMPF	日本楽器製造株式会社	1954(S29)	214
読売日本交響楽団	大阪読売新聞社		215
修禅寺物語	全国音楽教育連合会、二期会	1963(S38)	216
演奏会一覧表			217
PROGRAMME / Y.WATANABE	渡辺弥蔵	1951(S26)	222
その他プログラム関連			
放送プログラム (JOFK、8月12日) (3枚、変更追信1枚)	日本放送協会中国支部	1929(S4)	219
放送プログラム (JOFK、10月20日) (2枚)	日本放送協会中国支部	1930(S5)	220
音楽演奏会実施案 (早水仁三郎、山中正雄、西村静一郎、大井有隣、渡辺弥蔵)			221
書簡類			
書簡一式 (はがき)			224
書簡一式 (封書)			225
書簡一式 (原稿用紙、手書き)			226
書簡一式 (封書 (大))			227
公聴状			228
電報 (祝電)		1936(S11)	229
電報送達紙 (謝恩 / 広島師範学校)		1939(S14)	230
電報 (叙勲祝)		1969(S44)	231
電報 (叙勲祝)		1969(S44)	232
電報 (誕生祝い)		1976(S51)	233
電報 (白寿)		1977(S52)	234
[書簡草稿]			235
音楽教育関連資料			
全国高等学校音楽教育研究会広島大会報告書 第8回	全国高等学校音楽教育研究会ほか	1960(S35)	262
広島県教育音楽協会規約及会員名簿	広島県教育音楽協会		263
広島県教育音楽協会会員名簿	広島県教育音楽協会	1959(S34)	264
広島県音楽教育史年表	寺本和則	1967(S42)	269
広島県教育音楽協会総会のお知らせ		1959(S34)	322
全国高等学校音楽教育研究大会 第8回		1959(S34)	323
在広中等学校男女学生音楽思考の傾向調査		1936(S11)	333
テレビジョン放送実施についての意見書 (大学、高等学校音楽教育者団体、渡辺弥蔵会長)	広島教育音楽協会	1952(S27)	470
GAGAKU (第5回音楽教育国際会議)		1963(S38)	476
紀元二千六百年祝典関連資料			
写真			270
紀元二千六百年祝典斉唱団実施要領	内閣祝典委員	1940(S15)	271
紀元二千六百年奉祝会斉唱団名簿	内閣祝典委員	1940(S15)	272

資料名 (内容)	作成者	作成年	資料No.
紀元二千六百年奉祝会斉唱団参加学生生徒及引率職員宿泊割当等二関スル件	学部部长	1940(S15)	273
宿泊二関スル注意事項 (紀元二千六百年奉祝会斉唱団)			274
斉唱団参加者注意事項 (紀元二千六百年奉祝会斉唱団)			275
紀元二千六百年奉祝会斉唱団行動予定報告			276
奉祝典参列徽章 (紀元二千六百年奉祝)			277
読売新聞 (紀元二千六百年奉祝) S15.11.11	読売新聞社	1940(S15)	278
読売新聞 (紀元二千六百年奉祝) S15.11.12	読売新聞社	1940(S15)	279
寄稿記事 (公刊)			
中国新聞 「私の秘けつ」 S42.2.4 12 面		1967(S42)	299
中国新聞 「広島音楽界 50 年の裏表 1～42」 S38.1.8～3.6		1963(S38)	480
中国新聞夕刊 「日本の音楽教育」 S35.1.17		1960(S35)	481
中国新聞夕刊 「サンデー独語 秋思」 S37.9.16		1962(S37)	482
深田部隊旬報 第 17 号 S13.9.15 (『○○だより』作曲)		1938(S13)	483
寄稿記事 (草稿帳)			
「広島音楽界 50 年の裏表」 不載記事			486
原稿 1 自昭和 5 年 4 月		1930(S5)	487
原稿 2 自昭和 5 年 9 月 15 日		1930(S5)	488
原稿第 3 昭和 5 年 11 月		1930(S5)	489
原稿 4			490
原稿 5 昭和 7 年 2 月 22 日		1932(S7)	491
原稿第 6 自昭和 7 年 7 月 21 日		1932(S7)	492
原稿第 7 自昭和 7 年 8 月		1932(S7)	493
原稿第 8 昭和 9 年 4 月		1934(S9)	494
原稿第 9			495
原稿第 10 自昭和 11 年 11 月		1936(S11)	496
原稿第 11 昭和 12 年 5 月		1937(S12)	497
原稿 12 自昭和 12 年 6 月		1937(S12)	498
原稿第 13 自昭和 12 年 8 月		1937(S12)	499
原稿 逢水		1939(S14)	500
原稿 籟音 自昭和 16 年 9 月		1941(S16)	501
原稿 雷音 昭和 21 年 3 月		1946(S21)	502
原稿 籟音			503
原稿 昭和 27 年号		1952(S27)	504
其の日 その日		1969(S44)	505
百年雑話			506
大正 7 年から			507
音楽百話			508
同声会支部紹介 11 月 11 日			509
明治百年 音楽百話		1967(S42)	510
明治百年 音楽百話 続篇			511
伝記 贈本宛			512
裏街道			513
私の新聞と小説			514
勲五等拝受 記録の中			515
思 45 →			516



資料名 (内容)	作成者	作成年	資料No.
出羽 吉ノ谷 07 含			517
王陽明			518
胡馬朔風にいななき 越鳥南枝に宿る			520
私の歩んだ九十七年の道		1975(S50)	521
明治百年と思出の歌声 補の2 郷里解説			522
明治百年 師友の恩恵 補の3			523
補の4 忘勿草			524
随記		1966(S41)	525
鳥の声		1968(S43)	526
昼の夢			527
思出の第2		1969(S44)	528
思出の補1		1967(S42)	529
思出の3巻 叙勲まで			530
思出の補			531
明治六年 伊勢熊野道中記		1873(M6)	532
満鮮視察旅団思出の会		1964(S39)	533
故人歴訪参佛記			534
広島音楽の今昔		1952(S27)	535
南面観北斗			536
人間の真生活にはもっと幅の広さを要す		1973(S48)	537
現代教育と芸術教育			538
婦人の友社から			539
音楽の国民精神に及ぼす影響		1933(S8)	540
紀元節の唱歌に就いて		1929(S4)	541
講習録原稿		1937(S12)	542
小学校唱歌科の本体と其の使命			543
芸術教育に対する教育大家の批判			544
唱歌の真使命			545
現代教育思潮の新潮流			546
ははき(箒)川事件 東京修学旅行記		1899(M32)	547
音楽講話			548
広島県紹介			549
国旗と国歌を速かに法制化せよ		1953(S28)	550
有終会の生れた頃			551
芸能雑和 1/ 明治百年 音楽の三世相		1967(S42)	552
俗謡			553
唱歌「港」について		1966(S41)	554
広島の音楽		1966(S41)	555
昔を今に		1970(S45)	556
原稿		1972(S47)	557
思出の記 補筆 第1 幼年期			558
清音と濁音		1966(S41)	559
読書余録		1964(S39)	560
運命(原爆を浴びる)			561
父の道中記			562

資料名 (内容)	作成者	作成年	資料No.
銀杯を戴くの記			563
あの日 あの頃			564
明治百年と思出の歌声			565
昔と今		1964(S39)	566
日本人よ日本本来の姿に立ちかえれ		1964(S39)	567
小、中、高校芸術科音楽の連関に就いて		1955(S30)	568
他のふり、わがふり		1961(S36)	569
(表題なし)「根岸公聴の学校と卒業生との連絡交誼は…」			570
別信			571
進徳高等学校同窓会での話の原稿		1963(S38)	572
思出の八十年 第3巻 (第1～2巻欠本)			573
原稿「春の旅」			574
原稿「欲」			575
原稿「駿台学園竣工祝賀」			576
原稿「朝風に乗って (FKより放送原稿)」			577
「教育音楽の過去と現在及び将来」(東光堂製 12枚)、「ストの失敗談 (昭和 33.12.2)」(日章 5枚)、「三浦環の碑について (昭和 38 年 9 月)」(検察庁罫紙 1枚)			578
原稿「広島フィルハーモニーソサイティ」			579
原稿「旅」			580
三宅勇君に			581
原稿 (表題なし)			582
その他 (原稿の一部) 袋「全部貴重なる記録」(金光宛 / 武田生) ほか名簿用紙など			583
Music-History / Watanabe	Watanabe		589
<b>日誌類</b>			
ダイアリー・アドレス帳 (明治 42 年～昭和 39 年・中断あり) 51 冊			584
病床日誌 I (昭和 35 年 12 月～昭和 36 年 2 月)		1960(S35)	585
病床日誌 II (昭和 36 年 3 月 1 日～6 月 15 日)		1961(S36)	586
病床日誌 III (昭和 36 年 6 月 15 日～)		1961(S36)	587
自宅へ習いに来た生徒			588
自分史 (年表 / 主要事項抄録)			591
<b>広島フィルハーモニー関連資料</b>			
昭和 5 年広島フィルハーモニー会夏季音楽講習会 (名簿)		1930(S5)	331
フィルハーモニー関連資料		1973(S48)	592
<b>写真</b>			
アルバム			629-640, 642-650
写真			641
<b>その他</b>			
オルガン図面			606
レコード (『Serenade (Drigo)』 Mischa Elman ほか)			615

原則として、資料の記載に従ったが、下記の点については煩雑を避けるために統一した。

(1) 資料の巻号、回次などの漢数字はアラビア数字に置き換えた。

(2) 曲名、刊行物名は『 』を用いた。補記したものは〔 〕を用いた。

なお、資料 No.78 は曲名が判別できなかったが、楽譜内容から作品を特定した。

## 主要参考文献

- ・奥中康人『国家と音楽 伊澤修二がめざした日本近代』春秋社、2008年
- ・千葉優子『ドレミを選んだ日本人』音楽之友社、2007年
- ・寺田貴雄「エリザベト音楽大学附属図書館所蔵 渡邊彌蔵旧所蔵 音楽文献目録」、『エリザベト音楽大学研究紀要』XVII、1997年、75-101頁
- ・能登原由美「広島洋楽普及における放送メディアの役割—広島中央放送局開局時にみられる学校音楽教育界とのつながり—」『芸備地方史研究』第295・296号、2015年、39-54頁
- ・同著「渡邊彌蔵—広島洋楽普及の立役者—」『芸備地方史研究』第300号、2016年、209-213頁
- ・同著「広島と音楽」『広島市被爆70年史 あの日まで そして、あの日から 1945年8月6日』広島市、2018年、508-519頁
- ・『広島県大百科事典』中国新聞社、1982年
- ・前田紘二『明治の音楽教育とその背景』竹林館、2010年
- ・三宅勇三『雷音先生と信士列伝』、春秋社、1970年

## 脚注

- 1 広島における明治以降の音楽の歴史について、洋楽（特に「クラシック音楽」）の普及と浸透の記録を編纂するもので、2009年より開始している。その詳細については次の中間報告集を参照のこと。「広島音楽史」編纂プロジェクト編『戦前の広島における洋楽の普及』「広島音楽史」編纂プロジェクト発行、2013年
- 2 右記を参照のこと。能登原由美「広島と音楽」『広島市被爆70年史』広島市、2018年、508-519頁
- 3 これらの資料の概要については右記を参照。寺田貴雄「エリザベト音楽大学附属図書館所蔵 渡邊彌蔵旧所蔵 音楽文献目録」『エリザベト音楽大学研究紀要』XVII、1997年、75-101頁
- 4 渡邊の経歴については、次の文献で概説されている。三宅勇三『雷音先生と信士列伝』春秋社、1970年；前掲 寺田；能登原由美「渡邊彌蔵—広島洋楽普及の立役者—」『芸備地方史研究』第300号、2016年、209-213頁。本稿では、これらに加え、新たに見つかった渡邊による抄録（「年表」と「主要事項抄録」の2部分による構成、HMA591）、および自伝（遺族が翻刻したテキストデータによる。「思い出の八十年」とのタイトル有り、草稿、1961年6月21日の日付有り、HMA573）も参照している。以下、これらの文献から引用した場合は、それぞれ「主要事項抄録」、「自伝」と略称する。
- 5 自伝、19-20頁。なお、この中で幸田延については「幸田延子」と記されているが、正しくは「延」。
- 6 明治36年7月23日に東京音楽学校奏楽堂で行われたグルックの《オルフェウスとエウリディーチェ》のこと。
- 7 自伝、21-27頁。
- 8 いずれも渡邊資料で見つかったプログラム（HMA222）より。それによると、盛岡では、明治38年3月4、5日に開催された愛国婦人会岩手支部による「慈善音楽会」において、渡邊は独唱のほか、オルガンあるいはヴァイオリンを演奏している。高田では、明治42年8月5日に開催された高田音楽講究会による「音楽大演奏会」において、渡邊はピアノの連弾曲を演奏している。
- 9 主要事項抄録 明治42年；前掲 三宅 16,39頁。
- 10 明治期の音楽教育については、右記を参照。千葉優子『ドレミを選んだ日本人』音楽之友社、2007年；前田紘二『明治の音楽教育とその背景』竹林館、2010年
- 11 渡邊彌蔵「広島音楽界50年の裏表」第6回（HMA480-6）
- 12 明治38年7月から翌39年9月まで在任した成田蔵巳はピアノ科卒（「広島県師範学校一覽 明治三十八年十二月」1905年、26頁）。続いて同年10月から中断を経て42年9月まで在任した外山國彦は声楽科卒（「広島県師範学校一覽 明治四十一年三月」1908年、83,90-91頁；「広島県師範学校一覽 明治四十四年九月」1911年、200頁）。
- 13 渡邊彌蔵「広島音楽界50年の裏表」第6～8回、（HMA480-6～8）
- 14 渡邊彌蔵「広島音楽界50年の裏表」第12回（HMA480-12）によれば、演奏会にはかなりの聴衆が詰め掛けたという。
- 15 同上。なお、第2回のプログラムについては見つからないが、主要事項抄録には明治44年7月1日付でこの演奏会に関する記述があり、「縣下音楽家総賛助出演」とある。
- 16 自伝、38-39頁。
- 17 自伝、41頁。
- 18 『高等女学校音楽教科書』（5巻）（寶文館、1929年）、『高等女学校音楽教科書 教師用』（5巻）（寶文館、1930年）のことで、広島高等師範学校附属小学校で訓導を務めていた山本壽との共著。これらの書籍については、エリザベト音楽大学に寄贈されている。前掲 寺田による寄贈リストを参照のこと。
- 19 教科書のほか、『楽典精義』、『女学校用楽典教科書』、『楽典掛図』（10枚）がこの時期に出版されたとある。自伝（41頁）、および前掲 三宅（94頁）を参照のこと。ただし、現時点ではそれらの存在を確認できていない。
- 20 外国製ピアノの輸入・販売を手掛け、広島など地方都市の業者や個人に卸していた大阪の三木楽器店の台帳には、同校への販売の記録が残されている。それによると、同校は大正14年2月に1台、同年8月に新たに1台購入している。
- 21 渡邊稚聲「演奏会の後を省みて」『中国新聞』大正15年3月3日付。なお、執筆者の「渡邊稚聲」は渡邊の筆名の一つ。
- 22 主要事項抄録 昭和20年の箇所にもその詳細が記述されている。
- 23 前掲 三宅、56-57頁。
- 24 渡邊彌蔵「広島音楽五十年」（未定稿の冊子、1954年7月26日筆写校との書き込み有り）新修広島市史編纂資料1227
- 25 すなわち、「昭和7年8月第3回澤崎教授唱歌講習会」および「昭和8年8月第4回夏期講習荻野綾子女史唱歌講習会」と題した会員名簿、出納帳などが残されている。ただし、抄録によれば、昭和4年8月16日付けで「フィルにて澤崎氏の講習」



との記述があり、すでにこの頃から始まっていたものと見られる。

- 26 注 8 を参照のこと。
- 27 主要事項抄録より。ただし、当会のプログラム (HMA146) も見つかっているが、そこに記載された学校名は 12 校。
- 28 主要事項抄録 昭和 11 年 2 月より。
- 29 主要事項抄録には、昭和 5 年 2 月は 23 校、昭和 7 年 3 月は 35 校、昭和 8 年 2 月は 34 校、昭和 10 年 2 月は 33 校という記述がある。また、『中国新聞』昭和 6 年 2 月 14 日付によれば、昭和 6 年の会では、「広島市内から 22 校、県下各部から 18 校」参加とあり、ラジオによる実況中継が行われている。
- 30 渡邊彌蔵「児童音楽会の後を顧みて」『中国新聞』昭和 5 (1930) 年 3 月 2 日付。
- 31 『広島中央放送局開局十年史』(304 頁) によれば、昭和 13 年度時点で広島市におけるラジオ普及率は 42.4%、市部 (広島、呉、福山、尾道、三原) で 33.6%、管内全体 (広島、山口、島根、愛媛、高知、岡山県西部、鳥取県西部) で 15.8%。
- 32 渡邊稚聲「昭和三年における広島音楽界 (4)」『中国新聞』昭和 4 年 1 月 10 日付。
- 33 注 30 参照。また、渡邊とラジオ放送との関わりについては、能登原 (2015) を参照のこと。
- 34 例えば、下記の新聞各ラジオ欄を参照。『中国新聞』昭和 5 年 2 月 23 日 ; 同昭和 6 年 2 月 15 日 ; 同昭和 7 年 3 月 2 日。
- 35 すなわち、『最近楽典大要』(浅見文林堂、1907 年)、『初等楽典積義』(友田誠真堂、1915 年)。いずれも国立国会図書館蔵で、現在はデジタル資料として閲覧できる。
- 36 例えば、次のような記事がある。「文部省編纂の尋常小学唱歌について」『芸備教育』第 94 号 (1912 年 2 月号) 1-4 頁。
- 37 例えば、『中国新聞』において昭和 4 (1929) 年 1 月 6 日から 10 にかけて計 4 回にわたって連載したもの。ここでは渡邊稚聲という筆名で、第 1 回は「昭和二年における広島音楽界」、第 2 回から 4 回は「昭和三年における広島音楽界」について記している。
- 38 資料から発見された直筆の草稿で、渡邊籟音「決戦下の広島楽況」というタイトル、「昭和 18 年 5 月 18 日」の日付を持つ (HMA501)。
- 39 渡邊彌蔵「広島音楽界 50 年の裏表」第 31 回、(HMA480-31)
- 40 自伝より。
- 41 前掲 寺田によれば、エリザベト音楽大学附属図書館に寄贈された楽譜類は 324 点。
- 42 ただし、同一の音楽会に複数の資料があるものや重複している資料もあるため、音楽会の総数ではない。
- 43 注 37 参照。
- 44 注 24 参照。